

農地の地すべり危険地における民俗学的災害地名の分布

○岡本勝男(国土防災技術)

1. はじめに

大雨や地震のような自然災害によって、毎年多くの人命や財産が失われている。災害に見舞われやすい、または、災害の危険度が高い場所は、災害危険地区として把握されている。本稿では、農地に関連した地すべり危険地の集落(小字)名を調べ、それが民俗学的災害地名に該当するか検討した結果を報告する。

2. 方法

対象地域は長野県全域である。解析には、地すべり危険地_農政.shp を用いた(長野県 2014)。地名を調べるために、あぶない地名(小川 2012)、地理院地図(電子国土 Web)(国土地理院 2023)と農業集落境界データ(農林水産省 2021)を使用した。

解析はまず、あぶない地名に載っている著名な被災地の場所を、地理院地図を参照し、それで解決できない場合はインターネットで検索して QGIS 上にプロットした。次に、地すべり危険地_農政と農業集落境界データを UTM zone 54N WGS84 で再投影した。地すべり危険地_農政のポリゴンに含まれる集落の地名を地理院地図で調べた。同時に、農業集落境界データで集落名も調べた。集落名は地すべり危険地_農政のポリゴンの中心に近い地名から順に記録した。集落地名が民俗学的災害地名に該当するか否かを「あぶない地名」で調べ、その災害地名が地すべり危険地_農政のポリゴンにどのくらい含まれるかを分析した。

3. 結果と考察

長野県の災害地名は、山腹崩壊、斜面地すべり、土石流、河岸侵食、水害の 5 種類だった。重複を含んで全部で 49 か所あり、全県にわたって分布していた。地すべり危険地_農政のポリゴンは全部で 183 あった。例として木曾郡上松町の神田(かみだ)ポリゴンとその周辺を取り上げる(図 1)。ポリゴンは神田集落を中心として、農業集落の東奥(ひがしおく)と東里(ひがしさと)にまたがっている。神田の「カミ」はこの場合は「嘯ミ」で侵食を意味する。東はここではヒが輝(あかぎれ)または罫(ヒビ)で物の割れ目、カシ(ガシ)は傾ぐ、またはカシケで萎れるの意で、地面がひび割れて傾いて崩れる崩壊地形を指す。危険地ポリゴンに含まれる地名や交差する農業集落ポリゴンはこのように複数の場合がある。第 1 番目に記録した地名が災害地名のものは、97 ポリゴン(53.0%)あった。

本報告では、地すべり危険地_農政のみを対象にしたが、他の危険地区ポリゴンに含まれる集落も多数存在した。

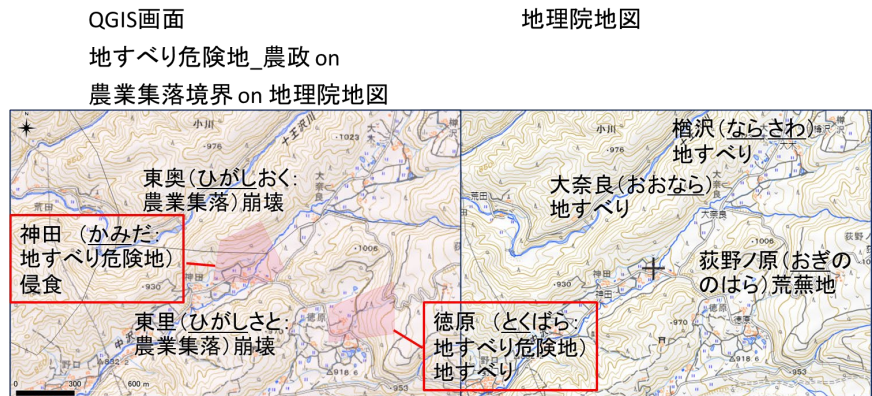


図 1. 地すべり危険地_農政ポリゴンと対応する地名の例。神田(かみだ)ポリゴン(木曾郡上松町)。背景は地理院地図

引用文献

小川豊 (2012) あぶない地名(災害地名ハンドブック), 三一書房, 東京.

国土地理院 (2023) 地理院地図(電子国土 Web), つくば. In <https://maps.gsi.go.jp/>

長野県 (2014) 長野県統合型地理情報システム 信州くらしのマップ, 長野.

In <https://www.gis.pref.nagano.lg.jp/pref-nagano/OpenData?mids=20001&pno=1>

農林水産省 (2021) 農業集落境界データ(2021年10月4日公開版), 東京.

In https://www.maff.go.jp/j/tokei/census/shuraku_data/2020/ma/index.html